

第67回日本医真菌学会総会・学術集会

イブニングセミナー1



2023年

10月6日(金) 16:55-17:55

第1会場

(川越プリンスホテル 3階 ダイヤモンドルーム)

これからの爪白癬治療

座長

山元 修 先生 鳥取大学 名誉教授

原田 和俊 先生 東京医科大学 皮膚科学分野 主任教授

爪白癬治療の現状と今後

演者

竹田 公信 先生 金沢医科大学 皮膚科学講座 准教授

冬こそ爪白癬の治療を～足の健康を維持するために～

演者

木村 有太子 先生 順天堂大学医学部皮膚科学講座 講師(非常勤)

爪白癬治療の現状と今後

演者 | **竹田 公信**

金沢医科大学 皮膚科学講座 准教授

現在の爪白癬に対する治療は、皮膚真菌症ガイドラインに準じて、内服可能な患者では内服抗真菌薬を第一選択とする。しかし肝機能障害などで内服不可能な患者、またSuperficial white onychomycosis (SWO) や dermatophytomaを伴う楔型を示す病型の患者では爪外用液を選択することになる。現在、臨床の現場において、内服後の薬剤爪中濃度や医療保険制度を意識した爪外用液を投与するタイミング、また爪外用液から内服薬へ切り替えるタイミングなど、過去の報告や知見を参考にしながら適正な判断が必要となる。さらに2種類ある爪外用液の選別は、薬効はもちろんのこと、患者背景、薬価、利便性などを十分に考慮した上での選択が重要となる。今後は長期投与となりがちな爪外用薬の適正使用を皮膚科医が共有し、効果とともに耐性菌出現の予防に貢献できるような爪白癬治療としなければならない。今回、金沢医大で行うさまざまな爪白癬治療の工夫について述べたい。

冬こそ爪白癬の治療を～足の健康を維持するために～

演者 | **木村 有太子**

順天堂大学医学部皮膚科学講座 講師(非常勤)

足白癬、爪白癬は高齢男性に多いイメージであるが、男女比はほぼ同じ割合で感染している。美や健康を意識するため運動する女性も増えており、スポーツジムやプールだけでなく、ヨガなど素足で行うスポーツの人気も高まっていて、若い女性でも以前より白癬菌への感染の機会が増えていると考える。夏はサンダルになり、フットネイルを楽しむ女性も多いが、ジェルネイルやつけ爪を外したあとに爪白癬に罹患している事に気がつき、慌てて受診するケースも少なくない。また、スポーツ選手は爪疾患があるとパフォーマンスが落ちるともいわれており、近年、アスリートの爪疾患の治療やネイルケアが積極的に行われている。高齢者に限らず全世代において、積極的な爪白癬治療を行って足の健康を維持していきたい。素足になる機会の多い夏に向けて、冬こそ積極的な爪白癬治療を行っていくのにはいい季節である。